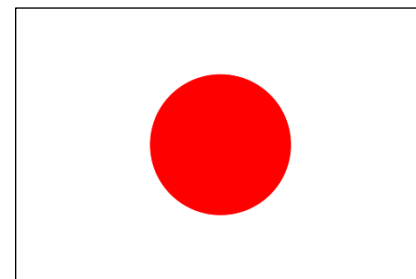


日ASEAN デジタルワークプラン 2025 (ADGMIN/ADGSOM+J)

総務省

2025年1月



日ASEAN協力の基本的視点

- 日ASEAN友好協力に関する共同ビジョン・ステートメント ～信頼のパートナー～
 - －未来の経済・社会を共創するパートナー [デジタル]
 - －平和と安定のためのパートナー [サイバーセキュリティ]
- ASEANインド太平洋アウトルック (AOIP)
- ASEANデジタルマスタープラン2025

日ASEANデジタルワークプラン2025における取組

1. デジタルインフラ及びデジタルトランスフォーメーション

- 5 G/Open RAN等によるデジタル連結性強化
- デジタルインフラの整備促進に向けた人材育成
- イノベーションの推進

2. 強靱性、信頼性及びセキュリティ

- AJCCBC
- ISP連携の推進
- 日ASEANサイバーセキュリティ政策会議

3. デジタル政策、規制及び標準

- AI政策
- インターネットガバナンス
- データガバナンス／Data Free Flow with Trust (DFFT)

4. 協力及び協調

- ASEAN関連会合への対話国としての積極的な参加
- 日ASEAN ICT基金等による支援
- ASEAN諸国との2 国間政策対話の実施

ASEAN地域のICT環境向上に力強く貢献

1. デジタルインフラ及びデジタルトランスフォーメーション

① 5G/Open RAN等によるデジタル連結性強化

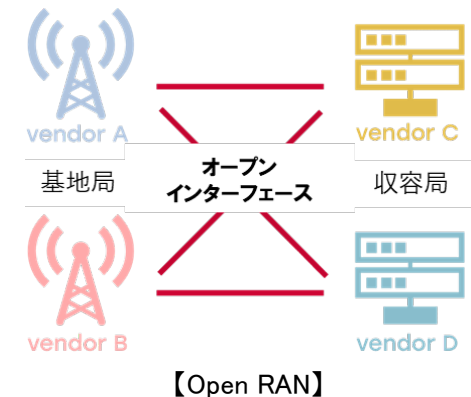
- 現地通信キャリアと共働した、Open RAN準拠の5G無線設備を活用する5Gネットワークの構築に関する実証等を通じ、ASEAN地域におけるDXやサプライチェーンの強靱化を推進。

② デジタルインフラの整備促進に向けた人材育成

- ASEAN各国を含めたAPT加盟国等を対象に、APTに対する日本の拠出金を活用した研修等を通じてデジタルインフラの整備促進に向けた人材育成を分野横断的に支援。

③ イノベーションの推進

- ICT Virtual Organization of ASEAN Institutes and NICT (ASEAN IVO) による「ASEAN IVOフォーラム2025」の開催によりASEAN地域共通の社会課題を解決するアイデアの共有、連携研究プロジェクトの実施などを通じ、研究連携アライアンスを拡大・強化。（本年も、ASEAN地域全体のICT研究開発の底上げを目指し、カンボジア、ラオス、ミャンマーからの提案採択を予定。）



【NICT・ASEAN連携研究アライアンス形成】

2. 強靱性、信頼性及びセキュリティ

① AJCCBC（日ASEANサイバーセキュリティ能力構築センター）

- AJCCBCにおいて、ASEANの政府機関等を対象とした演習を継続して実施するとともに、ランサムウェアに対応した新たな実践的サイバー防御演習（CYDER）を提供する等、演習コンテンツの充実化を図る。

② ISP連携の推進

- 日ASEAN間のISP連携をさらに推進すべく、情報共有促進に係る取組に加え、サイバーセキュリティスキル向上に資する演習を実施。

③ 日ASEANサイバーセキュリティ政策会議

- サイバーセキュリティ分野における我が国とASEAN諸国との国際的な連携・取組を強化することを目的とした今後の活動についての議論を継続して実施。



【AJCCBCでの研修】

3. デジタル政策、規制及び標準

① AI政策

- 研究開発・安全性：日本及びASEAN諸国の文化、言語等に関する多様性に配慮したAIの研究開発やAI安全性評価の基準、実施手法等に関する協力を実施。（例：各国語におけるLLMの研究開発やASEAN AI Safety Network等に関する協力）
- ガバナンス枠組：AI事業者ガイドラインや広島AIプロセス国際行動規範とASEAN AI Guideとの対応関係を整理し、これら枠組間の相互運用性の強化に向けた協力を実施。
- 多国間枠組での連携：広島AIプロセス・フレンズグループやAIに関する国際的パートナーシップ(GPAI) へのASEAN諸国の加入促進や広島AIプロセスに関する知識共有等を実施。（例：広島AIプロセス・フレンズグループ対面会合（本年2月）、GPAI東京イノベーションワークショップ（本年春））

② インターネットガバナンス

- 国連グローバル・デジタル・コンパクトのフォローアップ及びWSIS+20レビュープロセスに向けて、マルチステークホルダーアプローチの重要性について共通認識を醸成し連携して対応すべく、日ASEAN間での情報共有を促進。

③ データガバナンス／Data Free Flow with Trust (DFFT)

- DFFTの実現に向け、ASEANにおけるデータガバナンスとデジタル分野の国境を越えたサプライチェーンを念頭に、国境を越えたデータ流通について人材育成を支援。

4. 協力及び協調

① ASEAN関連会合（ADGMIN、ADGSOM、ATRC等）への対話国としての積極的な参加

② 日ASEAN ICT基金等による支援

- 日ASEAN ICT基金
- 日ASEAN統合基金

③ ASEAN諸国との2国間政策対話の実施

経緯

- 日ASEAN ICT基金は、総務省主導により2009年にASEAN事務局内に創設された基金であり、総務省は基金創設以降、毎年拠出を継続。拠出額の累計は200万米ドルに上る。
- 本基金により、ASEAN域内のICT環境の発展に資する取組を重点的に支援。

直近の実績

日ASEAN Open RANシンポジウム	2023年承認	提案国：日本
「日ASEAN友好協力50周年」の機会を捉え、ASEAN諸国の5Gネットワーク整備に係る政策課題を共有し、今後の国際協力の在り方及びOpen RANの活用方を追求するためのシンポジウムを開催。		
ASEANで自動運転を実現するための国境を越えたデータ流通プロジェクト	2023年承認	提案国：インドネシア
自動運転に必要とされるデータ・各国の実施状況及びデータ保護やサイバーセキュリティ等の関連規制に関する調査を行うとともに、そのギャップを明らかにしたうえで、ワークショップでの議論を行い、専門家等の意見も踏まえ報告書を作成。		
モバイルブロードバンドテクノロジーに関する先進的な電波監視プロジェクト	2023年承認	提案国：インドネシア
モバイルブロードバンドの電波監視の高度化を図るための、ASEAN加盟国へのベストプラクティスの共有を行うとともに、ワークショップを開催して先進的なモバイルブロードバンドの電波監視に関する能力構築・理解増進を図る。		
ASEANにおけるCERT協力やサイバーセキュリティ国際標準に関する能力構築	2024年承認	提案国：日本
ASEANに創設されたASEAN Regional CERT (Computer Emergency Response Team)の立ち上げを支援するため、CERT間の連携方策等に関するワークショップを開催。		

総務省は、2025年も本基金への拠出を継続し、ASEAN域内のICT環境の発展に貢献

参考資料

日ASEAN デジタルワークプラン2025(個別の取組)

5G/Open RANに係る日・ASEAN間での協力状況

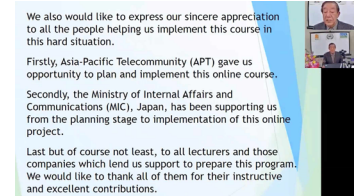
- 近年、総務省とASEANとの間では、5G/Open RANが最も重要な協力分野の一つとなっている。



- 日本は、アジア太平洋地域（ASEANを含む）におけるICT人材育成を目的としてアジア・太平洋電気通信共同体（APT）に資金を拠出し、APTが実施するICT研修や国際共同研究・パイロットプロジェクトを支援。

ICT研修

- 加盟国政府職員等を対象とした研修を実施。
- ブロードバンドやサイバーセキュリティ等に関する日本の知見・技術を幅広く共有。



SDGs及びDXに関する
研修（オンライン）



サイバーセキュリティ
に関する講義（日本）

国際共同研究・パイロットプロジェクト

- 2025年はASEAN 2 か国と連携して次の国際共同研究を実施。
 - ・駐車場の利用状況をリアルタイムで把握できるアプリケーションの構築に関する国際共同研究（カンボジア）
 - ・廃棄物の管理を容易にするデジタルプラットフォームの開発と実装に関する国際共同研究（マレーシア）

■ASEAN研究連携アライアンス形成

ICT Virtual Organization of ASEAN Institutes and NICT(ASEAN IVO)

NICTが東南アジアと培ってきた研究連携を礎に、ASEAN域内の研究機関・大学等23機関と共同で2015年2月に設立したバーチャルな研究連携組織。2024年12月現在、ASEAN全10カ国99機関が参加。域内のICT研究開発の面的な発展を推進し、多国間での研究成果の展開を図るため、毎年フォーラムを開催して域内共通の社会課題を解決するアイデアを共有し、提案・審査のうえ連携研究プロジェクトを実施。

活動内容:

- 各国共通の重要テーマに向けた協働の認識共有
- 共同連携プロジェクトの形成(共同研究, 実証実験)
- 多国間のワークショップの共同開催など研究交流
- 相互の研究者の派遣・受入れによる国際連携



ASEAN IVO Forumの開催

- 域内の社会課題*とICTによる解決アイデアを共有
*ルール対策、スマートシティ、農林水産、安心安全等
- 研究開発や実証実験の共同連携プロジェクトを形成
- 開催地:
 - 2024.11: Phnom Penh (Cambodia)
 - 2023.11: Vientiane (Laos)
 - 2022.11: Bangkok (Thailand)
 - 2021.11-2022.1: オンライン開催+Web上で開催
 - 2020.10-2021.1: Web上で開催
 - 2019. 11: Manila (Philippines)
 - 2018. 11: Jakarta (Indonesia)
 - 2017. 11: Bandar Seri Begawan (Brunei)
 - 2016. 11: Hanoi (Vietnam)
 - 2015. 11: Kuala Lumpur (Malaysia)

ASEAN IVO共同連携プロジェクトの実施

- 研究開発、実証実験
- ワorkshopなどの学術会議の開催
- 相互の研究者の派遣・受入れ
- プロジェクト数: 合計47件
 - 2024 年度: 5件、2023年度: 6件、2022年度: 5件、2021年度: 4件、
 - 2020年度: 4件、2019年度: 4件、2018年度: 6件、2017年度: 5件、
 - 2016年度: 8件

1. ISP向け日ASEAN情報セキュリティワークショップ

2011年よりASEAN加盟国及び総務省の共催により開催。ISPによるサイバーセキュリティ分野の取組等に関する情報共有、意見交換及び演習を実施。

第15回ワークショップは2025年3月5、6日に東京で開催予定。

2. オンライン情報共有基盤の構築

総務省において、ASEAN加盟国と日本のISP及び政府職員が意見交換ができるようオンラインコミュニケーションツール(Slack)を提供。

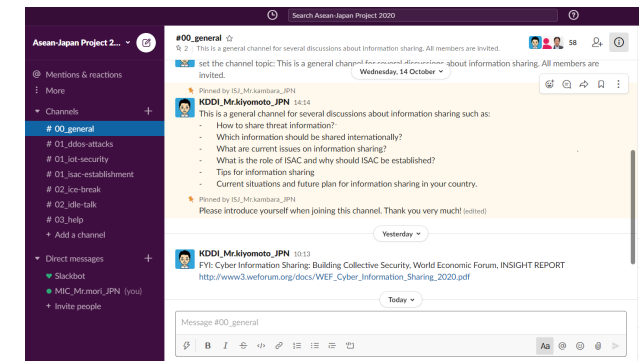
3. 今後の取組の方向性

日本のICT-ISACの経験をASEAN各国のISPに共有するべく、情報共有に関する机上調査を引き続き実施するとともに、より実践的なセキュリティオペレーションを想定した演習を実施することを目指す。

(*) ISACとは、Information Sharing and Analysis Center(情報共有分析センター)の略で、特定の産業界において、サイバー攻撃のインシデント情報等を収集・分析し、業界内で共有することを目的として、事業分野ごとに設立される組織。

#	開催時期	開催場所
第1回	2011年01月	日本(東京)
第2回	2012年03月	日本(東京)
第3回	2013年02月	タイ(バンコク)
第4回	2013年08月	日本(東京)
第5回	2014年10月	フィリピン(マニラ)
第6回	2015年12月	日本(東京)
第7回	2016年12月	タイ(バンコク)
第8回	2018年02月	日本(東京)
第9回	2019年01月	シンガポール
第10回	2019年12月	タイ(バンコク)
第11回	2021年01月	リモート
第12回	2022年01月	リモート
第13回	2023年01月	日本(東京)
第14回	2024年03月	日本(東京)
第15回	2025年03月(予定)	日本(東京)

日ASEAN情報セキュリティワークショップの開催実績



オンライン上での意見交換

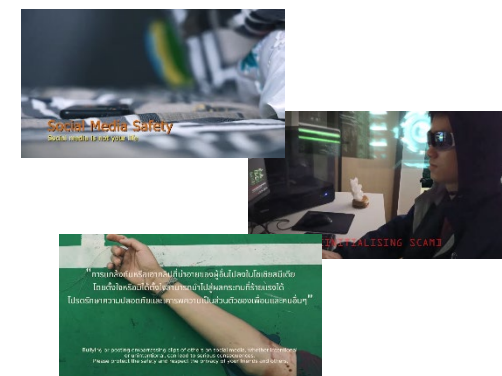
- サイバーセキュリティ分野における日本とASEAN諸国との連携・取組を強化することを目的とし、2009年2月よりおよそ1年に1度開催。
- 本会合には日ASEANのサイバーセキュリティ関係省庁及び情報通信関連省庁等の局長級が参加し、内閣官房（内閣サイバーセキュリティセンター）、総務省及び経済産業省が主催。
- 2024年10月にシンガポールで開催された第17回会合において以下の協力活動を推進していくことについて合意。

◆ 2025年の協力活動（CA : Cooperative Activities）の計画

協力活動	概要
リファレンス（便覧）	日ASEANのサイバーセキュリティに関する最新の取組状況を整理した便覧の策定
相互通知プログラム	サイバー脅威情報等の情報共有の枠組の改善・促進
リモートサイバー演習	大規模インシデント発生を疑似したオンライン演習の実施
机上演習	サイバー攻撃や政策等をテーマにした対面式の演習を実施
重要インフラ防護	重要インフラ防護に関するワークショップの開催
能力構築	日ASEANサイバーセキュリティセンター（AJCCBC）等を通じたASEAN向け能力構築プログラムの実施
共同意識啓発	意識啓発ビデオの利活用や意識啓発に関する取組の推進
産学官連携	日ASEAN間の官民・官学の一層の連携強化



第17回日ASEAN政策会議
（2024年10月@シンガポール）



ASEAN各国により作成された
意識啓発ビデオ（2024年）

1 広島AIプロセス

- ✓ 2023年5月、G7広島サミットを受け、生成AIに関する国際的ルールを検討のため、**広島AIプロセス**を立ち上げ。
- ✓ 同年10月及び12月の首脳声明を通じ、**広島AIプロセス包括的政策枠組**を策定・承認。

広島AIプロセス包括的政策枠組

- | | |
|---|--|
| 1. 生成AIに関するG7の共通理解に向けたOECDレポート | 3. 高度AIシステムの開発組織向け 広島AIプロセス国際行動規範 |
| 2. 全てのAI関係者向けの 広島AIプロセス国際指針 (下表) | 4. 偽情報対策に資する研究促進等の プロジェクトベース協力 |

(参考) 国際指針

【リスク対応】 ➢ 開発・公表前のリスクの特定、評価、軽減 ➢ 開発・公表後の脆弱性、インシデント等の特定・軽減	【研究開発】 ➢ セキュリティ管理やリスク軽減のための投資、研究、実施 ➢ コンテンツ認証と来歴メカニズムの開発・導入や標準化
【情報共有等】 ➢ AIの性能と制約に関する情報共有 ➢ AIに関する責任ある情報共有とインシデント報告 ➢ AIガバナンス・リスク管理方針の策定、実施、開示	【その他】 ➢ 個人データ・知的財産保護 ➢ 責任のある利用のためのリテラシー・スキルの向上



G7広島サミット

2 アウトリーチ活動

- ✓ 2024年5月のOECD閣僚理事会の際、広島AIプロセスの精神に賛同する国々の自発的な枠組である**広島AIプロセス・フレンズグループ**を立ち上げ。
- ✓ ASEAN 6 か国（ブルネイ、カンボジア、ラオス、シンガポール、タイ、ベトナム）を含む55の国・地域が参加（2024年12月末現在）。



OECD閣僚理事会

サミットの概要

1. GPAIについて

※1:多様な利害関係者が参画する意思決定プロセス

- GPAIは、人間中心の考え方に立ち、「責任あるAI」の開発・利用を実現するため設立されたマルチステークホルダー※1の国際的な官民連携組織。2020年に発足し、日本は当初参加15カ国の一つで、GPAIの推進にリーダーシップを発揮。
- 本年7月より、OECDの関連作業部会との一体的運営とAI専門家コミュニティの統合により、OECDとの連携を強化。

2. GPAIサミットについて

※2:2020年はカナダ、2021年はフランス、2022年は日本、2023年はインド

- GPAIでは、毎年末翌年の議長国が担当閣僚級サミットを開催※2。第5回として、セルビアがGPAIサミット2024を主催。

日時：2024年12月3日（火）～4日（水） 場所：セルビア宮殿（セルビア・ベオグラード）

参加者：OECD・GPAI加盟国（44カ国+EU）、日・仏・加のGPAI専門家支援センター、著名な研究者等

（セルビアの首相・関係大臣等、前回議長国インド・次回議長国スロヴァキアの担当大臣等、OECD事務総長、仏の担当長官等が参加）

GPAIベオグラード閣僚宣言

- セルビアのベゴヴィッチ大臣の議長により閣僚理事会を開催し、「GPAIベオグラード閣僚宣言」を採択。宣言の主なポイントは以下のとおり。

- AI等に関連する格差を、国際、国家レベルで縮小させる必要性を確認
- 安全、安心で信頼できるAIの促進のため、多様な利害関係者と協力しGPAIの活動を構築
- 事実に基づく分析と最善の取組を、多様な課題において引き続き推進
- 新規加盟国（発展途上国や新興国を含む）をOECD・AI原則に基づき迎えることを期待

- 宣言について各国からスピーチ。日本からは、今川総審から、GPAI東京センターが効果的な専門家活動を行えるよう支援していくこと、広島AIプロセスの推進を通じて安全、安心で信頼できるAIの普及に努めること等を発言。また、原山優子・GPAI東京センター長からも同センターの活動状況をアピール。
- 2025年2月に開催予定の「AIアクションサミット」にてGPAIをアピールするため、加盟候補国も招待し、非公式閣僚会合を開催する旨の提案あり。
- 議長より、スロバキアが次期議長国（2026年）となり、2025年末にブラチスラバで次期サミットが開催予定である旨報告。

